

Injury Alert (傷害速報)類似事例

強力磁性玩具の誤飲による小腸穿孔(No. 66 磁石と鉄球の誤飲による小腸穿孔の類似事例 7)

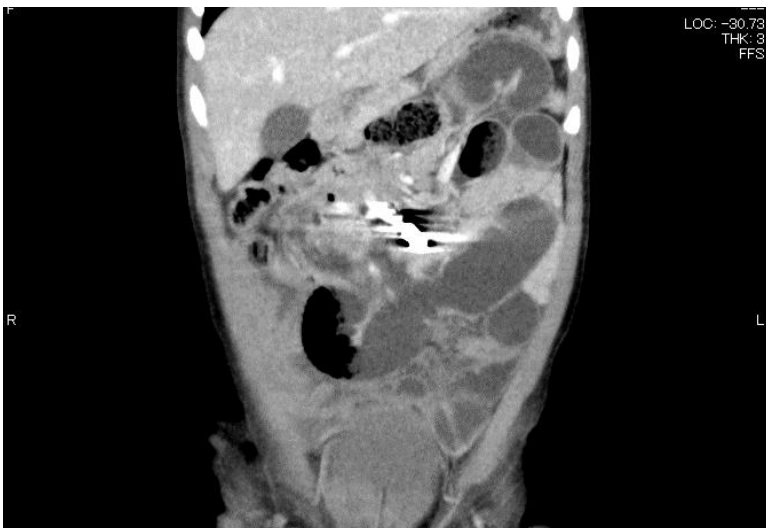
事例	基本情報	年齢：1歳7か月 性別：女児 体重：10.5k 身長：85.0cm
	家族構成	父、母、兄(3歳)
	発達・既往歴	腹部手術歴を含め特記事項なし
臨床診断名		ネオジウム磁石誤飲、腸閉塞
医療費		入院 894,760円
原因対象	対象名称	マグネットボール サイズ：1個5mm
	入手経路 使用状況	インターネットで、3歳の兄のおもちゃとして購入。購入時は1000個入りのものであった 新品/中古：不明 使用頻度：不明だが、普段遊ぶときは両親と一緒に使用して遊んでおり、兄だけで使用させたことはなかった。兄は好奇心が強く普段から兄の遊び道具を奪いに行くような様子は見受けられていた。磁石で遊ぶときもよく一緒に遊んで磁石を奪ったりしたことはこれまでも複数回あった。 遊ぶ場：和室またはリビングルーム 磁石の保管場所：キッチン台の端で台の高さは130cm、兄から目の届かない場所であり、施錠などなし
発生状況	発生場所	自宅
	周囲の人 周囲の環境	腹痛発症時は母が近くにいたが、誤飲した時期・状況などは不明
	発生年月日	2020年9月X日(木) 午前10時50分

	<p>発生時の 詳しい様子 受診までの経緯</p>	<p>2020年8月中旬、腹痛を訴えることがあったが自然回復し一過性で特に問題視していなかった。</p> <p>発生日の朝6時50分ごろに母と兄と一緒に朝食を食べた。兄は2口程しか食べなかった。(当時の兄の所在は不明)</p> <p>朝食を摂取したのち午前9時ごろまでテレビを見て過ごし、その後再度入眠した。</p> <p>午前11時ごろから間欠的な啼泣が出現し、近医受診。レントゲンで腹部正中に金属球と思われる異物が5個連なる形で認められ、母に伝えるとマグネットボールを飲んだ疑いがあるとのことで、対応可能な医療機関へ救急車で搬送された。</p> <p>経過中、嘔吐なし。</p>
	<p>医療機関受診時 以降の治療経過 転帰</p>	<p>午後6時ごろ医療機関に到着した。到着時、バイタルサインは心拍数141回/分、呼吸数30回/分、SpO₂:99%(室内気)と異常は認めず意識清明であったが、間欠的啼泣は持続していた。腹部は平坦、軟で打診痛や反跳痛は認めなかった。腹部X線写真(図1)にて透過性の低い数珠状に連鎖する球状の物体が認められた。CT(図2)では腹部正中に金属アーチファクトと思われる所見があり、磁石と矛盾しない所見を認めた。すべて1カ所にあり、左上腹部で口側の腸管拡張が見られ腸閉塞が疑われたため、緊急手術となった。</p> <p>術式:腸閉塞解除術、空腸部分切除、癒着剥離</p> <p>所見:横行結腸中央部-空腸回腸移行部でバンド形成があり通過障害の原因となっていた。癒着を剥離した。</p> <p>トライツ靭帯から10cm肛門側で径5cmのループ形成ありさらに検索進めると腹壁鉤に空腸が吸着してきたため磁石を同定できた。</p> <p>空腸-空腸腸間膜対側が磁石で穿通し瘻孔形成していた。同部を切除し端端吻合を行った。</p> <p>瘻孔の形成からは誤飲して時間が経過していると思われた。今回のバンド形成・癒着など術中にみられた所見は、腹部手術の既往がなく、全てマグネットと考えている。</p> <p>術後1日集中治療室へ入院したが経過問題なく術後2日目に一般病棟へ転棟した。その後も経過良好で、術後5日目で退院した。退院後の経過も特に問題はない。</p>
	<p>キーワード</p>	<p>マグネットボール、腸閉塞、小腸穿孔</p>



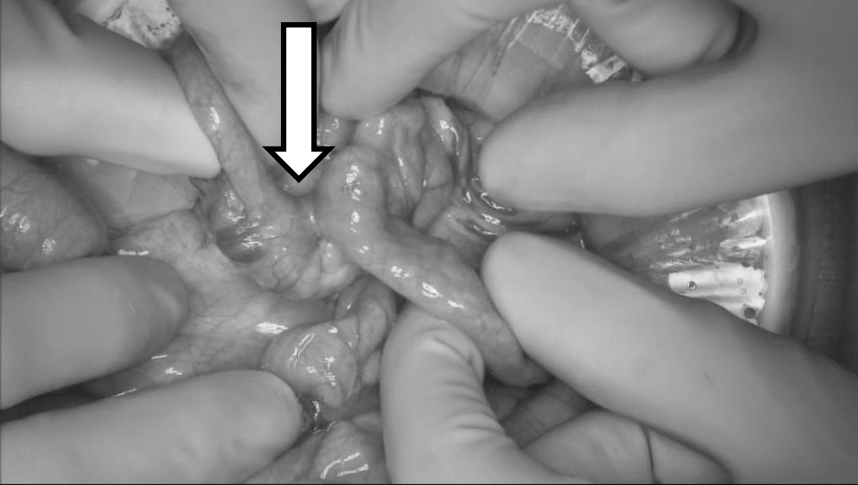
【図1】腹部 X線写真(臥位 正面像)

数珠状に連なった球状の金属を認め、左上腹部の腸管の拡張を認める。



【図2】造影 CT 冠状断

腹部正中に数珠状に繋がったようなアーチファクトの強い陰影を認める



【図 3】 マグネットで癒着した腸管